

## 精神科患者に対してNSTが介入した1例

三重県立志摩病院 NST

松井華代（看護師）、河北知之（医師）、前田宏美（看護師）、萩原味香（管理栄養士）、向山美幸（薬剤師）、池村志穂（看護師）、三浦涼子（看護師）、吉村平（医師）

### 【はじめに】

当院は入院病床 350 床のうち、精神科病床を 100 床有している。2004 年～2008 年のNST 依頼の 239 症例のうち精神科からの依頼が 31 例(13%)であった。介入期間は一般病床の症例が 1 ヶ月以内に終了する例が 61%に対し、精神科症例は 1 ヶ月以上に及ぶ例が 60%と長期にわたる。精神科疾患のある患者の特徴は、肥満が多いといわれているが、4 年間で NST 介入した精神科疾患 31 例のほとんどが「体重減少」であった。

今回、計算上の必要加リ-を投与しても、活動が活発で、予想通りに体重が増加せず、約 6 ヶ月の介入を行った 1 例を紹介する。

### 【症例】

53 歳、男性、知的障害。平成 20 年 5 月に体重減少と低血糖で市内の施設より入院した。入院後、夜間不眠と多動で他患者とのトラブルあり保護室対応となった。低血糖の原因精査をおこなったが異常はみつからず、栄養管理目的でNSTに依頼があった。

平成 20 年 7 月NST介入時、身長 168cm、体重 50kg（入院時は 46kg）、標準体重 62.4kg、ストレス係数 1.0、活動係数 1.2、BMI 17.6、BEE 1245kcal、TEE 1494kcal、AC 23.6、TSF 5、ALB 2.1 g / d l。

入院後は低血糖予防のために、食事（2000kcal/日）以外にインシュアキッドを 4 缶摂取しており、約 3250kcal/日を摂取していた。それにより体重増加は 6.7kg/2 ヶ月を認めた。しかし、BUN 上昇のため、インシュアキッドを中止し、角砂糖に切り替え、投与加リ-は 2500kcal/日とし、経過をみた。やはり、投与カロリー減少に伴い、体重も減少していったため、活動係数を 2.5 に設定し直し、窒息に注意しながら、常食 1.5 倍（3000kcal/日）の摂取にかえる。この間、おやつに家族からの差し入れ（煎餅や羊羹を 600kcal/日）を摂取するよう指導していたが、家族から「おやつ代が大変負担になってきました。どうにかならないでしょうか」と相談があり、常食を 2 倍（4000kcal/日）に増量し、おやつの量を減らしていった。現在、夜間睡眠がとれ、活動量が減少し、体重は 60.5kg、ALB4.1 g / dl に改善した。血糖値も安定している。

### 【まとめ】

睡眠もとらず、動き続ける患者は精神的なストレスも重なり、私たちが想像する以上に相当なカロリー量を消費していると思われる。今回、活動係数を 3.0 で算定したカロリー摂取で体重の増加がみられた。睡眠時間や活動量に応じた栄養アセスメントが必要であると考えさせられた症例であった。